

2

全国溶接技術競技会

溶接技能日本一を競うことによって溶接技能者のレベル向上を図り、広く溶接技術の重要性を啓発することを目的に毎年開催している全国溶接技術競技会は、選手のみならず溶接関係者にとって最大のイベントの一つとなっている。2018年度の開催により64回を数えるに至った本競技会の開催実績を第11編に示す。

本競技会は、被覆アーク溶接の部と炭酸ガスアーク溶接の部の2部門において、薄板と中板の2種類の溶接によって競われる。選手は全都道府県の代表として、原則1部門1名ずつ予選会などによって選出される（複数名選出の都道府県も一部あり）。さらに開催地の都道府県については1部門1名ずつ追加する。

なお、2014年度東北地区秋田大会では第60回の節目を記念し、通常の選手枠とは別に東北地区6県全体での選手枠を1部門2名ずつ特別に追加した。

2004年度第50回中部地区静岡大会から最優秀者には経済産業大臣賞が授与されている。

なお、愛知県代表の松浦洋選手が、被覆アーク溶接の部（2009年度）と炭酸ガスアーク溶接の部（2010年度）の両部門で最優秀となる初の快挙があり、当協会として特別表彰を行った。

競技課題は原則5年ごとに見直され、ここ10年間は2010年度と2015年度に変更された。

2010年度版の課題から、中板溶接に邪魔板が用いられるようになり、現行の2015年度版課題は、薄板が4.5mm横向I形突合せ継手、中板は9.0mm立向上進V形突合せ継手である。

開催地は全国を持ち回っており、開催地の指定機関のご尽力とその所属する各地区指定機関連絡会のご支援により運営されている。また、会場は各地域のポリテクセンターをはじめとした公共団体や企業等に、溶接機は㈱ダイヘンとパナソニック㈱に、溶接棒・ワイヤは㈱神戸製鋼所と日鉄溶接工業㈱にそれぞれ提供をいただいている。このように本競技会は多くの溶接関係者の理解と協力の下で成り立っており、当協会として今後一層積極的に推進していく。

この取組みの一環として、2017年度第63回東部地区神奈川大会および2018年第64回中国地区山口大会では、溶接競技の一般見学を認めた。最高峰の技能を多く目の当たりにできる絶好の機会であるため、会場規模や状況にもよるが、今後も可能な限り一般見学は行い、より開かれた競技会としていきたい。